

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、2週間以内に必ずご提出ください)

2025 年 10 月 30 日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏 名	小笹瑛一朗

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県, 熊本サングチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2025 年 10 月 20 日 ~ 2025 年 10 月 23 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サングチュアリ, 平田聡先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
1 日目 施設を見学し、チンパンジーとボノボの観察を行った。今まで動物園では、ガラス越しでしかチンパンジーを見たことがなかったが、初めて格子越しに観察した。通常、動物園では常同行動がみられるものであるが、熊本サングチュアリのチンパンジーたちは、思い思いに動き回っているように見えた。また、チンパンジーの威嚇行動(大声を出す、格子を叩く)も初めて観察した。平田先生から、「チンパンジーの社会では、大きな音を出す者が偉い」という説明を受け、価値観の違いに驚いた。ボノボは国内では熊本サングチュアリでしか飼育されておらず、チンパンジーと並んで、ヒトに最も近縁な種である。まず驚いたのは、声の大きさと、チンパンジーよりも小柄であったが、より高音で鳴いていたためチンパンジーよりもかなり通りやすい声に聞こえた。ひとり、指の色がかなりヒトに近い肌色のボノボがいたが、これは近親交配によるものだと、平田先生から説明を受け、近親交配による異常が体色に反映される場合もあることを学んだ。 2 日目 午前中は、チンパンジーの餌やりを行った。野菜や果物を一口大に切り分け、一か所に餌をまとめるのではなく、枝に刺したり物陰に隠したりして、チンパンジーが餌を探せるような工夫をした。また、餌に薬をまぜて投薬を行う様子も観察した。薬は粉末状になっていて、これは、錠剤の薬はチンパンジーが受け付けられないためであるようだ。 その後、近くで伐採した竹を用いて、筒状に切り出し、上手く傾けたり、道具を使って餌を取りだしたりできるように、穴をあけて加工した。2種類作成し、ボノボに渡してみたところ、傾けて餌を取りだすものは、竹を振りながら上手く食べているように見えた。一方で、道具使用を期待して作成したものは、上手く棒を使うことができず、結局は壊してしまった。紐の締め付けが甘かったこと、道具を使わなくとも竹を揺さぶるだけで餌が出てきたこと、が原因として考えられる。 3 日目 2日目と同様に竹を切り出し、加工して餌を詰め、チンパンジーに渡してみた。傾けて餌を出す仕組みのものは、最初は竹を傾けたり振ったりしながら餌を出していたが、最終的には咬み砕いて壊してしまった。道具を使うものは、観察しやすいように樹木が少ない箇所に固定したが、当日は雨天であったため、雨を嫌うチンパンジーは屋根のある場所から出てこなかった、それでも、ひとりのチンパンジーが固定された竹を咬みちぎり、紐から外すことに成功した。紐を外すのではなく、竹を直接破壊することで、竹の固定の解除に成功していた(おそらく偶然だが)。飼育員の方や、平田先生が途中で道具使用を促すために、棒を差し出したが、結局、チンパンジーも棒を使うことはなかった。チンパンジーについても、道具使用が見られなかった原因としては、道具を使わなくとも竹を揺さぶる

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、2週間以内に必ずご提出ください)

だけで餌が出てきたことが考えられるので、中身が見えない竹ではなく、透明な材質で同じようなものを作成すれば、違った結果になるかもしれないと考えた。



こちらを観察するチンパンジー



チンパンジーに与えた餌



ボノボによって破壊された竹

※この実習報告書は提出前に担当教員（引率教員がいる実習は引率教員が、いない場合は指導教員）のチェックを受けてください。

6. その他（特記事項など）

本実習の参加にあたり、PWS から支援をいただきました。ご支援に感謝いたします。指導していただいた平田先生、板原様、ならびに熊本サンクチュアリの皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。